

JBSA お知らせ

No. 5 2009

12月24日
学会事務局

〔お知らせ〕

お知らせ

第9回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会報告

第9回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会を賀来満夫学会長（東北大学大学院 医学系研究科 感染制御・検査診断学分野）のもと、平成21年12月10日（木）・11日（金）の2日間にわたり仙台国際センターにて開催いたしました。特別講演、新型インフルエンザシンポジウム、招請講演、セッション講演、口演とポスターによる一般演題の発表及び展示を行いました。新しい取り組みとして、感染症臨床の実際についてのベーシックレクチャー「感染症クリニカルマネジメントの実際」及びランチョンセミナーを開催いたしました。

特別講演では長崎大学名誉教授の松本慶蔵先生による「呼吸器感染症の過去・現在・未来」についてのお話がありました。先生の研究生生活を振り返りつつ、肺炎、肺結核及びインフルエンザ（アジアかぜ、香港かぜ）との遭遇等、貴重な体験をお話いただきました。新しい気管支局所採痰法の確立とインフルエンザ菌の分離同定、坑ウイルス剤、肺炎球菌ワクチン等大変力強く、興味深いお話を拝聴でき感染症を理解する上で大変参考となりました。新型インフルエンザシンポジウムでは感染研の感染症情報センター長の岡部信彦先生から様々な角度から疫学情報を分析して報告をしていただきました。各シンポジストの先生からはそれぞれの立場での貴重な情報提供がありました。招請講演ではベトナム国立衛生疫学研究所の Dr. Thuy Nguyen Thanh から JICA の協力による BSL3 実験室の設置と運営及び研究所全体のバイオリスク管理に関するお話がありました。

4つのセッション講演（I. 施設・動物実験、II. アジア各国におけるバイオセーフティ、III. 消毒と滅菌関連及び IV. 医療施設関連）が企画されました。セッション I. では、バイオセーフティ施設における総合的な

セキュリティの考え方と入退室管理に関する物理的セキュリティ、実験動物飼育室の空調設備の消費エネルギー低減時の局所排気機能付き作業台の有用性及び小風量制御手法の導入による室圧制御等についての紹介がありました。安全キャビネットについての JIS 規格、日本空気清浄協会におけるバイオハザード対策専門委員会の活動、一例として現場検査技術者の育成についての紹介がありました。セッション II. では、韓国 CDC の JW Choi 主任技師から韓国の BSL3 施設の国による認証制度について、台湾バイオセーフティ学会長の Dr. Kuo からバイオセーフティの現状について及び台湾 CDC の Li-Li Lee 研究・診断センター副主任から CDC におけるバイオセーフティ管理の現状の紹介がありました。セッション III. では、消毒薬の定義と適正使用を推進するための各消毒薬の効果と特性、有害事象について及び滅菌については高圧蒸気滅菌を中心として注意点及び滅菌保証等の報告がありました。セッション IV. では、インフルエンザ、結核、野兔病及び抗酸菌症についてバイオセーフティ上の観点からお話がありました。

一般演題では、二酸化塩素ガスのインフルエンザウイルス感染に対する予防効果、野生株ポリオウイルスの実験室封じ込めの現状、病原体輸送容器について及びグループインタビューの手法による病原体輸送に関するイメージ調査成績について5題の口演発表がありました。病原体の一括管理システム、バイオハザード対策用防護服及び国産国連規格輸送容器の開発についての3題はポスター発表で行われました。また、JICA 地域研修「アジア地域新興感染症バイオハザード対策」参加者による各国・機関におけるバイオセーフティの取り組み、リスクマネジメントの実情、今後の課題等についてのポスター発表がありました。

2日間にわたり、11社からの展示出展がありました。安全キャビネット、病原体輸送用国連容器、防護服等の展示があり多くの方の参加を得られました。会期中は会員、非会員を含め約130名の参加があり、活発な質

疑が行われました。盛況のうちに総会・学術集会を終了することができました。詳細については、第9回のプログラム・講演抄録集をご覧ください。

総会において2008年度(1月-12月)会計報告、会計監査報告及び2009年度予算案の修正、2010年度予算案報告があり承認されました。2010-2013年度任期理事に、倉田毅、黒澤努、小暮一俊及び杉山和良氏が当選したことが報告されました。また、投票によりロゴが決定した旨の報告がありました。2010年度活動方針については、2010年度の第10回学会総会・学術集會会長の倉根一郎理事(感染研)からの2010年12月6、7日(月・火)にパシフィコ横浜(横浜)にて開催予定の旨の挨拶がありました。2010年度にはニュースレターを発行することが報告されました。国際バイオセーフティ学会連盟(IFBA; The International Federation of Biosafety Associations),アジアパシフィックバイオセーフティ学会(A-PBA; The Asia-Pacific Biosafety Association)について2010年度予算案に活動費が計上され、JBSAとして正式に参加していくことが報告されました。JBSAバイオセーフティガイドラインワーキンググループ(WG)の活動状況について報告がありました。引き続き、第10回集会においても、会員からの演題応募等、参加よろしく願いいたします。

理事会報告

日時:平成21年10月25日(日)15:00-17:00

場所:感染研共用第2会議室

議題:

1. 理事及びロゴの選挙開票
2. 第9回学会総会・学術集会について
3. その他
 - 1) 第10回学会総会・学術集会について
 - 2) ニュースレター
 - 3) その他

議事要旨

1. 理事及びロゴの選挙開票
 - 1) 理事選挙結果報告
 - ① 事前に投票者が会員である事は調査済み。
 - ② 選挙候補者以外の理事・アドバイザーにて開票立会いを行った。
 - ③ 有効投票総数75票
理事選挙開票の結果、倉田毅、黒澤努、小暮一俊、杉山和良会員が当選となった。
 - 2) ロゴの開票の結果、候補3が選ばれた。
理事にて協議の上、変更なく決定した。
2. 第9回学会総会・学術集会について
学会長の賀来理事から準備状況について報告があった。2つの会場で、特別講演、新型インフルエンザシンポジウム、4つのセッション、招請

講演、一般演題、ポスターセッション及びランチオンセミナーを企画していることが報告された。

今回はコーヒープレイクの時間を利用し、ベシックレクチャーを行うことが報告された。

海外からのバイオセーフティの関係者の講演による「アジア各国のバイオセーフティ」のセッションを行うとともに、各国代表者の意見交換会を別途別会場で行うことが報告された。

一部の座長の調整を行った。北林理事から10程度の展示の申し込みがあったこと及び抄録への広告掲載申し込みが8件あったことが報告された。

事務局より、A-PBA・IFBAについて今後の本会での取り組みに就いて更なる協議(方針をあきらかとする)が必要との意見があった。本件での取り組みは必要とのこととなった。

12月10日(学術総会時)12:00からの理事会(新旧)にて更なる討議を行うこととなった。

総会・学術集会での、海外からの参加者との意見交換会時には、理事は出席をする様に事務局よりお願いをした。

3. その他:連絡・報告事項

1) 第10回学会総会・学術集会について

会長の倉根理事から準備状況について説明があった。会期は2010年12月6日(月)、7日(火)の2日間で、パシフィコ横浜で開催する予定であること、また、実行委員長は感染研 杉山和良室長、プログラム委員長は感染研 安藤秀二室長、プログラム副委員長は感染研 西條政幸室長に依頼した旨報告された。

2) ニュースレター

事務局から、「お知らせ」は事務局で年5回程度出しているが、今後、本会からの情報発信として、「お知らせ」に代わり年4回程度(2, 5, 8, 11月)のニュースレターを出してはどうかとの提案があった。内容としては、寄稿、解説、エッセイ、バイオ学会の発表抄録、会員便り等を載せる。山西理事長から、次回理事会にて担当者を決める等、具体的な提案を用意するようにとのことであった。

3) A-PBA

倉根理事から、具体的な話ではないが、今後A-PBAの開催をJBSAが担当し日本で開催ということも考えられるのではないかと意見があった。倉根理事から、第10回集会と共催でやることも考えられるが準備期間を考えると1年では難しいのではないかと、本会の年次集会とは別に行うこともあり得るのではないかと、本会として引き受けるとすれば理事長が会長になるのではないかと、次理事長のもと対応していく必要があるのではないかと等の意見があった。

4) 学会等の法人化について

倉根理事から、他の学会等で議論されているが、学会の運営形態に関し、税制の問題から公益社団法人か一般社団法人あるいは他の形をとるかいずれ決めなければならないような状況になっているが、5年の時限があるようだ等の情報提供があった。

5) 次回の理事会は新旧合同で仙台の学会開催時に行う。

理事会報告

日時：平成21年12月10日(木) 12:00-13:00

場所：仙台国際センター小会議室4

議題：

1. 第9回学会総会・学術集会の総会運営について
2. ニュースレター発行
3. その他

議事要旨

1. 第9回学会総会・学術集会の総会運営について
 - 1) 賀来学会長による挨拶
 - 2) 総会次第内容および進行の確認
 - ① 2008年度決算、2009年度予算(案)の修正報告
 - ② 2010年度予算(案)
 - ③ 2008年度会計監査
 - ④ 理事選挙報告
2010から2013年(1-12月)任期理事として倉田毅、黒澤努、小暮一俊、杉山和良会員の当選と受諾について
 - ⑤ ロゴの投票結果報告
候補3に決定
 - ⑥ IFBA及びA-PBAへのJBSAとしての参加について
 - ⑦ JBSAガイドラインの活動報告
2. ニュースレター
事務局からニュースレター発行についての案が提出された。内容としては、寄稿、解説、エッセイ、バイオ学会の発表抄録、会員便り等々を載せる。編集委員会を発足させることが了承された。案に示された編集委員候補者については、新理事会で検討することとなった。年4回程度の発行となっているが山西理事長から、会員等の負担にならないようにとの意見があった。
3. 第10回学会総会・学術集会学会長の倉根一郎理事から平成22年12月6,7日(月、火)にパシフィコ横浜にて開催する予定であることが報告された。
4. その他
次回理事会を年明けに開催し役割分担を決める。

新理事会メンバーによる理事会

理事会に引き続き、新理事会メンバー全員による理事会が開催され、倉根一郎理事が新理事長に選出された。

学会費納入

2009年度(1月-12月)の年会費5,000円(正会員)、30,000円(賛助会員)をご納入くださいますようお願いいたします。納入に際しましては、お知らせ2008、No.4にて発送いたしております「払込取扱票」にてご納入ください。

なお、入会金1,000円、2008年度(1月-12月)までの正会員年会費5,000円を未だ納入していただいていない会員の方は、同様に「払込取扱票」にてご納入くださいますようお願いいたします。

学会開催案内

第10回日本バイオセーフティ学会総会・学術集会

学会長 倉根一郎 (感染研)

会期：平成22年12月6,7日(月、火)

会場：パシフィコ横浜

第5回アジアパシフィックバイオセーフティ(A-PBA)

学会年次会議

会期：2010年5月25-28日

場所：ソウル

<http://www.a-pba.org>

第53回アメリカバイオセーフティ(ABSA)学会年次会議

会期：2010年9月29日-10月6日

場所：デンバー、コロラド

<http://www.absa.org/>

新規会員紹介

正会員

本田 俊哉 (株)日立製作所

東京都千代田区外神田1-18-13

内田 良介 兵庫医科大学

兵庫県西宮市武庫川町1-1

会員数(正会員241名、学生会員1名、賛助会員14社；2009年10月)

決定ロゴマーク



日本バイオセーフティ学会
The Japanese Biological Safety Association

学会事務局： 国立感染症研究所バイオセーフティ管理室内
杉山 和良
〒162-8640 新宿区戸山1丁目23番地1号
TEL 03-5285-1111 FAX03-5285-1184
E-mail ksugi@nih.go.jp
<http://www.nih.go.jp/niid/meetings/jbsa/gakkaiannai03.html>